

小規模多機能型居宅介護「2021年度サービス評価」 総括表

法人名	(株) もくれん	代表者	施設長 諸井 望	法人・ 事業所 の特徴	地域密着型サービスとして、小規模多機能型居宅介護事業所として、その役割をしっかりと認識し、「自宅や住み慣れた地域で少しでも長く生活し続けて頂くために」、サービスの組み合わせの柔軟さも勿論ですが、サービス内容の柔軟さも大切にしています。
事業所名	小規模ホームもくれん	管理者	諸井 望		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	隣事業所	事業所スタッフ	その他	合計

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	引き続き今回分をホームページ上にアップする。	ホームページ上にアップした。		コロナ禍で行動が制限される中、少しずつ「地域への取り組み」から再開していきたい。 引き続き今回分もホームページ上にアップする。
B. 事業所のしつらえ・環境	より多くの方にホームページやフェイスブックが閲覧してもらえるように宣伝を行う。 広報誌は少し形を変えて作成負担の少ない「ライト版」の発行を検討する。	ホームページならびに Facebook、Instagram などに定期的に投稿した。 ライト版に広報も発行することが出来た。	出来る限り、行動制限に繋がるような設え、対応は行わなかった。また感染対策として換気と加湿に努めた。	設えや環境は継続し、地域の方に入ってもらいやすい環境や取り組みを進める。
C. 事業所と地域のかかわり	コロナ禍でも開催出来る、少人数開催など、新しい形での地域交流を検討する。	事業所と地域の関りは相互に足が遠く結果となった。	コロナ禍において地域交流の機会ほぼ無く、相互に足が遠く結果となった。	コロナ禍の様子を見ながら、地域の方に足を運んで頂ける、関心を持って頂けるような取り組みを進める。
D. 地域に出向いて利用者の暮らしを支える取組み	コロナ禍でも開催出来る、新しい形での地域参加を検討する。	感染の傾向を知ることによって感染対策を講じつつ、個々に応じた地域参加の機会をお手伝いすることが出来た。	コロナ禍ではあるものの、感染対策を講じ、買い物支援、受診支援、個別に応じて地域参加出来るように努めた。	コロナ禍の様子を見ながら、地域の方に足を運んで頂ける、関心を持って頂けるような取り組みを進める。
E. 運営推進会議を活かした取組み	コロナ禍においても参加者が増えるように会議の開催方法について検討する。	コロナ禍にてほぼ書面会議にて対応した。	コロナ禍にてほぼ書面会議にて対応した。	より参加者を拡げて再度内容を検討する。感染対策を講じた上で本開催出来るように努める。
F. 事業所の防災・災害対策	コロナ禍でも開催出来る、新しい形での地域を巻き込んだ防災訓練を検討する。	避難訓練、緊急時連絡訓練はお妻えたが、外部の方を巻き込んだ内容は出来なかった。	避難訓練、緊急時連絡訓練を施設内で実施。他機関他事業所の立ち合いは行えなかった。	コロナ禍の様子を見ながら地域の方も交えた避難訓練の実施、BCPの策定など担当者を中心に具体的に行動する。